

## ヒメキボシカスミカメの発生について

1. 病害虫名：ヒメキボシカスミカメ *Polymerus cognatus* (Fieber)

2. 発生作物：アスパラガス

3. 発生の経過

平成27年9月、県南部のアスパラガスほ場において若茎の曲がり症状に加え、アスパラガス茎葉の著しい白化症状が確認された（品種：ウェルカム）。これまで県内では確認されていないカスミカメムシ類によるものと考えられたため、農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、ヒメキボシカスミカメ *Polymerus cognatus* (Fieber) であることが確認された。

本種は国内ではこれまで本州（青森県、山形県、新潟県）で発生報告があり、国外では全北区に広く分布しているが、国内ではこれまで害虫としての報告は無く、今回が初報告となる。

4. 形態・生態と被害の特徴

(1) 体長は3.8～5mmと他の近縁種と比べてやや小型で、体型もスリムである。全般にくすんだ暗褐色だが、雌の地色は少し淡い。小楯板先端、半翅鞘外縁および楔(けつ)状部の基部と先端は淡色となる。楔状部は通常赤みを帯びる（図－1）。

(2) 本種の成虫は、県内では概ね6～9月に継続的に発生が確認され、7月中旬と8月中旬に発生のピークが確認されたことから年2世代の発生である可能性が高い（図－5、6）。

(3) 成虫による擬葉の吸汁が認められ、食害部は白化することが観察されている（図－2、3）。また、若茎において幼虫の吸汁が観察され、線状の食害痕および曲がり症状が認められる（図－4）。

(4) 2016～2017年の2か年にわたり、薬剤散布を実施したことにより被害は抑制されている。

5. 宿主範囲

アカザ科、キク科、ムラサキ科、シソ科など。

6. 被害作物

欧米ではテンサイ、ジャガイモの害虫として知られる他、中国ではワタやゴマでの被害発生の記録がある。

7. 防除対策

多発した場合は薬剤による防除となるが、ヒメキボシカスミカメでの薬剤登録がないため、カメムシ類やカスミカメムシ類に登録のある薬剤で防除を行う（表－1）。

8. 資料



図－1 ヒメキボシカスミカメ成虫



図－2 擬葉における食害痕



図-3 側枝上で吸汁する成虫



図-4 幼虫による食害痕

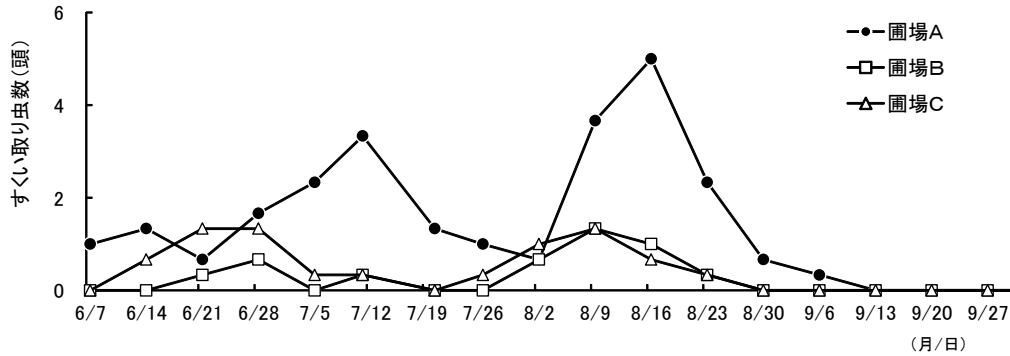


図-5 ヒメキボシカスミカメ成虫の発生推移 (2016年)

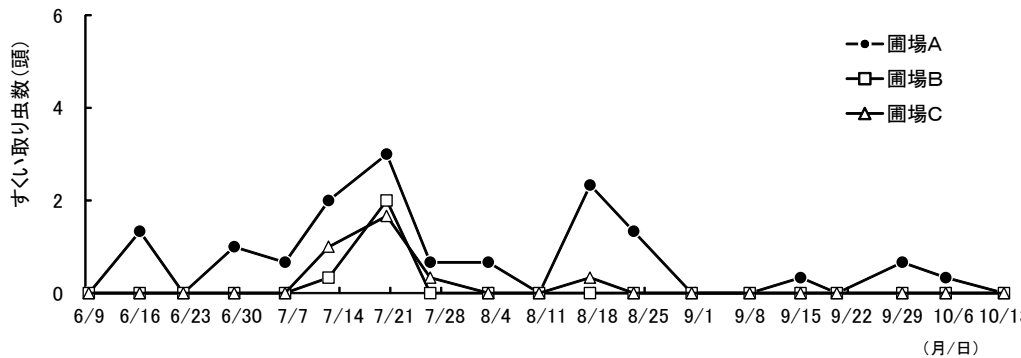


図-6 ヒメキボシカスミカメ成虫の発生推移 (2017年)

※図-5、6は秋田県農業試験場生産環境部による草冠部すくい取り（10回振り）調査結果

表-1 カメムシ類及びカスミカメムシ類で登録のある薬剤

系統	農薬名	希釈倍数〔散布液量〕	使用時期	使用回数
g	アルバリン顆粒水溶剤	2,000倍〔100～800L/10a〕	収穫前日まで	3
	スタークル顆粒水溶剤			
	ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍〔100～300L/10a〕	収穫前日まで	3
l	コルト顆粒水和剤	4,000倍〔100～700L/10a〕	収穫前日まで	3

g:ネオニコチノイド剤 l:その他

※アルバリン顆粒水溶剤/スタークル顆粒水溶剤、ダントツ水溶剤はカメムシ類での登録。  
コルト顆粒水和剤はカスミカメムシ類での登録。

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所	TEL 018-881-3660
秋田県農業試験場	TEL 018-881-3326
掲載HP <a href="https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/">https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/</a>	